



公益財団法人日本ユニセフ協会協定地域組織
佐賀県ユニセフ協会通信 Uniwish2号(2011年9月)

佐賀県佐賀市水ヶ江4丁目2番2号
(電話・FAX)0952-28-2077
(業務時間)月・火・木・金 10:00~15:00
E-mail unicef-saga@ams.odn.ne.jp
<http://www.saga-unicef.jp/>



© UNICEF Japan/2011/Sato

日本ユニセフ協会などの支援で、町立女川第二小学校に設置された『ちゃっこい絵本館』で、子どもたちに囲まれるアンソニー・レーク事務局長(中央)と黒柳徹子ユニセフ親善大使(右)、アグネス・チャン日本ユニセフ協会大使。

東日本大震災

3月11日未曾有の大災害から半年…

子どもにやさしい復興に向けて
日本ユニセフ協会は、復興支援活動を続けています

地震発生から2日後の3月13日、日本ユニセフ協会はユニセフ本部の全面的なバックアップを受け、ユニセフファミリーとしておよそ50年ぶりとなる日本国内での支援活動を開始しました。未曾有の大災害によってあまりにも多くのものが失われた被災地において、子どもたちの生活と、心身の健康そして発達を支えるために展開されてきた緊急・復興支援活動。

その6ヵ月間を振り返る報告書がまもなく出来上がります。被災した子どもたちはどのような状況に置かれていたのか、子どもたちのニーズに応えるべくおこなわれた活動内容、そしてそれを支えてくださった関係者や支援者の声が収められています。

6ヵ月レポート完全版は、近日中に日本ユニセフ協会のホームページに掲載予定です。

【緊急段階の活動】

あらゆる物資が必要とされながらも、その調達と輸送が非常に困難だった震災直後、支援企業から寄贈された飲料水20トン、子ども用肌着20万枚以上、紙おむつやおしりふきなどの衛生用品が、被災各地の生活協同組合のみなさまの多大なるご協力により届けられました。

行政が壊滅的な打撃を受けたことで機能を失っていた保健システム（予防接種や乳幼児健診など）の復旧への支援、保健師等の巡回訪問用車両の提供、避難所での保健・栄養調査、栄養補助食品やビタミン強化米の配給、赤ちゃんの栄養相談を受け付ける無料ホットラインの開設などの保健・栄養支援をおこないました。子どもたちの心のケアを目的に、「子どもに優しい空間（Child-Friendly Space）」の設置に取り組みました。

【教育支援】

4月の学校再開に向けて、被災地の小中学生約40,000人分の文房具を個別梱包して届けた他、授業再開に不可欠な先生方のコンピュータや学校備品を提供する『バック・トゥ・スクール』キャンペーンを展開しました。

学校に比べ支援が遅れていた未就学児への支援として、幼稚園・保育園の再開を目指す『バック・トゥ・幼稚園／保育園』にも着手。現在は、震災で全半壊した幼稚園・保育園・学童保育など10施設を対象に、子どもや保護者、関係者の意見を取り入れた施設建設支援を継続しています。

日本全国からの寄贈絵本や児童書を被災地に届ける『ユニセフ ちっちゃな図書館』プロジェクト。8月末現在、約27万冊以上の絵本・児童書が、被災地の避難所、小中学校、幼稚園・保育園、学童施設、子育て支援グループ等の団体、そして被災された個人に届けられました。

【保健・栄養支援】

一日も早く母子保健サービスが再開されるよう健診用の身長計や体重計、診察台、ワクチン保冷庫などの支援をしてきた結果、4月19日には岩手県陸前高田市で震災後初めてとなる乳幼児健診が、5月22日には宮城県女川町で母子健診が再開されました。その後6月にかけて各地で本格的な健診・予防接種事業が再開されました。健診のために遠方の避難先から戻ったという人も多く、女川町の母子健診の受診率は78%という高い受診率になりました。

宮城県女川町では、地震による被害で使用できなくなった給食施設の修繕を支援。8月22日の新学期に合わせて給食施設が再稼働しました。

【心のケアと保護】

遊びを通じて心の中にある恐怖や様々な気持ちを表現し、心のストレスを軽減させるプレイセラピーの講習会を、日本プレイセラピー協会の協力のもと、被災各地で開催し、これまでに子どもたちに関わる保育士、教員、保護者など約1,000人以上が受講しました。

岩手県では『ユニセフこどもバス遠足』、福島県では『ユニセフ思いっきり外遊びプロジェクト』。いずれも、子どもたちに安心してのびのび遊べる機会を提供するために実施し、両県合計で、約33,000人の子どもたちが参加しました。

福島県では、県の臨床心理士会と提携し、専門家による巡回相談などを通じて未就学児やその保護者への心のケアを続けています。

震災以降、世界の子どもたちから日本ユニセフ協会に届けられた被災地の子どもたちへの手紙やメッセージは、2000通（約30カ国）以上に上ります。その手紙を被災地の子どもたちの元へ届け、また日本の子どもたちからの返事を各国に届ける『Tegami Project』が7月15日にスタートし、海外の子どもたちとのかかわりを通して、被災地の子どもたちが夢や可能性を広げていけるよう、活動が続けられています。

日本ユニセフ協会は、被災地の復興において、子どもに優しいまちづくりを推進しています。復興を考える住民集会や会議において、子どもの視点を取り入れていく支援をおこなっています。

【資料提供：日本ユニセフ協会】

世界の子どもたちは、今

アフリカ東部地域、干ばつと食糧危機

国連が「飢餓地域」と宣言するソマリアは今、370万人が命の危機に瀕し、150万人が過酷な避難生活を強いられています。アフリカ東部地域の全体の被災者は1240万人に上り、子どもたちが支援を必要としています。【2011年9月5日 ジュネーブ発】



©UNICEF/NYHQ2011-1222/Holt
ソマリアにある病院で娘の手を握る母親

干ばつや食糧価格の高騰、長期にわたる武力紛争に苦しむソマリア。子どもたちをはじめとする多くの人々の命が最も深刻な状況に置かれている地域が、ここにきて更に拡大する兆候を見せている一方、人道支援団体の多くは、最も支援を必要としている人々になかなか支援を届けられない状況に直面しています。

こうした困難な状況の中でも、ソマリア国内各地に常設の事務所を構え、長年にわたり国全土で人道支援活動を行っているユニセフの広報官は、5日、ジュネーブの国連本部で開かれた記者会見で、ソマリアの子どもたちが置かれている現状を次のように訴えました。

ソマリア南部の150万人の子どもたちが、緊急に支援が必要な状態です。8月現在、生後6ヵ月から5歳までの45万人の子どもたちが、急性栄養不良に陥っているものとみられています。このうち、推定19万人が重症です。これは、健康な子どもに比べて、最大9倍も死亡する確率が高いことを意味しています。こうした重症状態にある重度の急性栄養不良の子どもたちの多く（75パーセント）は、ソマリア南部に集中しています。

ソマリア南部のほとんどの地域で、6人に1人の子どもたちが深刻な栄養不良に陥っています。中でも、「ベイ」と呼ばれる地域の急性栄養不良の割合が最も高く、58パーセントにも達しています。これは、WHOが“危険域”として定めている15パーセントの約4倍近くに達します。

下シャベレとアフゴイの河川地域と農牧地域、そして首都モガディシュで避難生活を送っている人々の間では、1日10,000人あたり13人を超える高い割合で、5歳未満の子どもたちが命を落としています。農村部のジュバ地域を除くソマリア全土の5歳未満児の平均死亡率は1日10,000人あたり4人強です。

今支援が届けられなければ、急性栄養不良の子どもたちの多くは、数週間以内に死亡する可能性があります。一方、治療さえ受けられれば、こうした子どもたちの健康状態は、急速に回復するのです。

ユニセフの支援活動

- 今年1月から7月までの間に、重度の急性栄養不良状態にある6万3,400人の子どもたちに、治療支援を提供。中度の急性栄養不良状態の子ども90,080人には、補助栄養食を使った支援を提供。
- ソマリア全土に設置された800箇所の栄養不良治療用の給食センターを支援。うち、子どもたちの状況が深刻なソマリア南部の約500箇所のセンターでは、月平均7,500人だった受診者数が、1万7,000人に達する事態に。
- ユニセフが現在最も力を入れていることの一つは、（治療センターに来た子どもたちだけを対象にするのではなく）、今回の被害が深刻な地域に住む全ての子どもたちとその家族に、補助栄養食を提供する活動。今後半年間にわたり、毎月20万世帯に、こうした支援を提供することを目指している。
- 約300箇所の母子保健センターを通じ、200万人以上の子どもたちに緊急の保健サービスを提供すべく準備を進めている。また、ソマリア最大の都市モガディシュに住み続ける人々や、モガディシュから逃れてきた人々が一時的に身を寄せている地域で、栄養不良治療センターなどを拠点に、飲料水や衛生施設（トイレ）へのアクセスの拡充を図っている。



© UNICEF/NYHQ2011-1219/Holt
ソマリアのモガディシュで、父親に抱えられて病院へ向かう子ども

【資料提供：日本ユニセフ協会】

～活動詳報～



■ ユニセフパネル展&ユニセフグッズ頒布

8月3日(水) ピースアクション2011会場 アバンセ(佐賀市どん3の森)



- 佐賀県生活協同組合連合会主催の『ピースアクション2011～子どもたちに、核兵器と戦争のない世界を願って～』が開催され約200人の参加者がありました。今年は子どもを連れてお母さんの参加が目立ちました。午前中は、どんどんの森ふれあい広場から平和行進がスタートしました。午後はアバンセホールで「平和のつどい2011」が開かれ、講演「被爆の証言」とアニメ映画「ジュノー」の上映がありました。
- ホール・ホワイエで、ユニセフのパネル展・地雷レプリカ展・ユニセフグッズの頒布をしました。

グッズ頒布ご協力は13,810円、募金へのご協力は10,330円でした。ありがとうございました。

■ 第20回佐賀市平和展 ～語り継ごう、平和の尊さ～

パネル展「紛争下の子ども的人権」&地雷展「地雷ってどんなもの？」

8月4日(木)～8月7日(日)



佐賀市立図書館
(佐賀市どん3の森)

- 佐賀市では平成4年度から毎年「佐賀市平和展」を開催し、今年で20回目を迎えます。

- 今年の平和展は、「親と子がいっしょに考える平和展」をコンセプトに、子どもたちにも分かりやすい内容の展示や催しもの、また戦時中の食事や遊びを体験するコーナーなどが設けられました。「漫画家たちの八月十五日展」「こどもたちへ伝えたい、佐賀空襲の記憶」、ユニセフのパネル展、地雷レプリカ展などに3000人を超える市民の皆様のご来場がありました。

、【来場者の声(アンケートより)】

- どの子にも平和に生きる権利があるはずなのに、生まれた時代と地域によってひどい格差があることに胸が痛む。
- 今まで地雷がどんなものか知らなくて、こんなにたくさんの種類があるのにびっくりした。おもちゃみたいなのは子どもが間違っても触ってもおかしくないし、殺傷能力がとても強いものもあって、地雷はとても恐ろしいと思った。
- 学校は、こういう事を教えてくれないんです、本当。かといって、テレビやインターネットでも、なかなか真剣に考えてみる時間というものがありませんでした。いい時間を過ごせました。ありがとうございました。

■ ユニセフ出前授業

8月9日（火） 唐津市立浜玉中学校（唐津市ひれふりランド）
テーマ：「平和について考える」



○唐津市立浜玉中学校（生徒数334人）生徒会では8月9日に平和集会を開催しました。
1分間の黙とうのあと、生徒会役員による「長崎原爆」と「世界の子どもたち～児童労働・少年兵～」の発表がありました。続いて3年生のみなさんが修学旅行で行った「知覧特攻平和会館」で学んできたことを発表しました。その後、佐賀県ユニセフ協会より「平和について考える」という演題でお話をさせていただきました。

【学習を終えて】

- 今日のお話で「子どもの権利条約」があるということを知りました。
毎晩電気をつけられること、ご飯を三食きちんと食べられること、勉強ができることなど、私たちにとっては日常の当たり前のことですが、戦時中にはとてもできなかったということが分かりました。日常を守る、平和のために私ができる「はじめの一步」を考えて実行していきたいです。
- 平和とは日常のことがふつうにできる毎日のこと、今日の話聞いて自分たちがどれだけ平和な生活をおくっているかが分かりました。ふつうに勉強できること、食べられることに感謝したいと思います。

■ 東日本大震災復興支援～からつの子どもから被災地の子どもへ～ からつジュニアオーケストラ ♪からつの夏「第九」演奏会♪

8月21日（日） 唐津市民会館大ホール（唐津市西城内）



○からつジュニアオーケストラ（筋田典代団長）は創立10周年を記念してベートーヴェンの交響曲「第九番」の演奏会を開催しました。モーツァルトの「アイネ・クライネ・ナハトムジーク」のウェルカム演奏でお客様を迎え、1200人収容の大ホールは満席になりました。小学2年生から中学生、高校生、大学生を中心に76人の団員と4人のソリスト、90人の合唱団のみなさんが、演奏できる喜び、歌える喜び、心をつなげて音楽ができる喜びを高らかにホールいっぱいに響かせました。

○開演にあたって筋田団長から「からつの子どもから被災地の子どもへ音楽のできる喜びを届けましょう。」と、ユニセフ東日本大震災緊急募金協力の呼びかけがありました。「歓喜の合唱」の余韻のなか、多くの皆様から62,972円のご協力がありました。ありがとうございました。



ご支援
ありがとうございます

赤松小学校様 佐賀リハビリテーション病院様 北方小学校様 母子草様
トヨタ紡織九州株式会社様 ようどう館佐賀校様 ほんごう音楽教室様
からつジュニアオーケストラ様

大塚製薬佐賀工場様 さが市民活動プラザ様 仁比山小学校様 道海島小学校様
山口商事様 ヘルスランチあららぎ様 西村会計事務所様 佐賀友の会様
福岡大名ライオンズクラブ様 雇用能力開発機構佐賀センター様
佐賀大学医学部社会医学講座様 副島病院様 佐賀県高等学校家庭クラブ連盟様
越前市武生西公民館ピーターパンクラブ様 佐賀共栄銀行様 グランデはがくれ様
回生薬局伊万里駅前店様 佐賀県生協連様 佐賀市役所様 ライフデザイン様
サニーハウス様 いのちの電話様 (2011年7月1日～9月20日)

★ いろいろな形でのご支援・ご協力に心から感謝申し上げます。
個人の方からもたくさんのご支援ご協力をいただいておりますが、
この欄でのご紹介は学校・企業・団体様等のみにさせていただきます。



ユニセフって なあに？

～ユニセフの歴史～



ユニセフができたのは、1946年のことです。当時、第2次世界大戦が終わったばかりで、世界では多くの子どもたちが、親をなくしたり、住む家を焼かれてしまったり、食べるものがなかったり、とてもきびしいくらしをしていました。

★日本がユニセフに支援を受けてきた歴史★

第2次世界大戦のあと、日本の子どもたちも食べるもの、着るものがなくて困っていました。そこで、ユニセフは1949年から1964年までの15年間にわたり、日本の子どもたちを支援したのです。給食用の粉ミルク（脱脂粉乳）や、薬、服の原料（原綿）など、ユニセフから日本への支援の総額は当時のお金で65億円にもなりました。

★考えてみましょう★

どうしてユニセフはできあがった衣服ではなく、衣服の原料（原綿）を送ったのでしょうか？

答え：自分たちの服は自分たちでつくろう、という自立をうながすためです。日本にはもともとすぐれた「布や衣服を作る技術」（繊維産業）がありました。もしできあがった衣服をおくってしまったら、その産業はすたれてしまいます。原料をおくればその技術を使って布や衣服をつくることができ、日本の経済を発展させることにもつながる、と考えられたのです。



の仲間たち!

佐賀清和高等学校3年 清少納言フレンズ



佐賀清和高校3年清少納言フレンズのみなさんは、5月の東日本大震災支援コンサート「アンサンブルブレイメンと仲間たちコンサート～子どもたちの笑顔のために～」や、東日本大震災緊急支援チャリティーバザー、8月の佐賀市平和展などでボランティア活動をしました。受験勉強で忙しい中に時間を作って「被災された方や子どもたちのためにできることを何かしたい。」と担任の先生に申し出てのユニセフボランティア体験でした。明るい笑顔での対応はユニセフコーナーに立ち寄られる方々に好感を持たれていました。

【活動を振り返って】

私は東日本大震災の救援活動に必死に取り組んでいるインターアクト部の活動に心を動かされ入部しました。そして校外では幅広くボランティア活動に携わっているユニセフに魅力を感じて活動に参加しました。実際にグッズ頒布やチャリティーバザーのお手伝いをして、多くの人の温かい心に直接触れることができました。

被災された方々のために懸命に活動していらっしゃる方、活動を手伝う私たちに励ましの言葉をかけてくださる方など、かけがえのない人と人との絆をユニセフの活動を通して得ました。

ユニセフは世界中の子どもの幸せのために活動しています。日本だけではなく他の国の現状を学び、その救済のための活動にもこれから貢献していきたいです。

(by 清少納言フレンズ:fukuda)

☆☆☆ これからの予定 ☆☆☆

- ① 10月8日(土)～10月15日(土) ユニセフ・東日本大震災報告巡回写真展 佐賀市立図書館
- ② 10月8日(土)～9日(日) ユニセフ・東日本大震災報告巡回写真展 佐賀大学医学部キャンパス
- ③ 10月9日(日) ユニセフのつどい ～ありがとう 前へ～ 佐賀市立図書館

たくさんのおみなさまのおいでをお待ちしています。詳しくはチラシを!

- ④ 10月16日(日) 東日本大震災募金贈呈式
出前授業「東日本大震災からはじまる学び」柳川市立大和公民館なんでんお助け隊
- ⑤ 10月19日(水) 26日(水) 出前授業 ドリームパーク③④ 神崎小学校
- ⑥ 11月16日(水) 出前授業 柳川市立矢ヶ部小学校
- ⑦ 12月11日(日) 18日(日) ユニセフ ハンドインハンド(予定)

ユニセフ カードとギフト

- ユニセフの素敵なグリーティングカードやはがき、おしゃれなファッション雑貨、可愛い子ども用品がいっぱい♪
- ユニセフ製品は、製品代金の約50%がユニセフ活動資金として世界の子どもたちのために役立てられます。
- クリスマスカードや年賀状、プレゼントなどに、ユニセフのカードとギフトをご利用ください。
(一部をご紹介します)

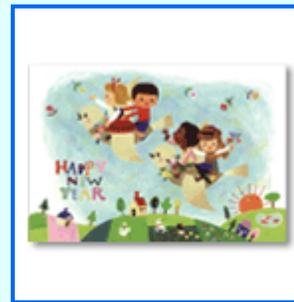
© (公財)日本ユニセフ協会



幸せをのせて



HAPPY



希望の空へ

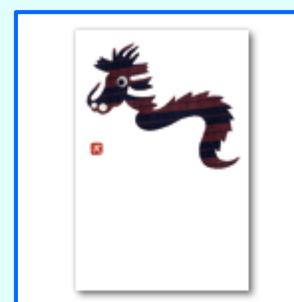
New年賀はがき
年賀状用
はがき10枚
1セット ¥ 500



竜の行書



寿松図



辰年に幸あれ

※このほかにも
色々なデザイン
の年賀状が
あります。



2012年デスクトップカレンダー
¥1500



Newキャンドル/クリスマス星空
¥1500



New赤ちゃん布絵本
¥2400

★他にもたくさんの素敵な製品があります。カタログをご希望の方は佐賀県ユニセフ協会までお知らせください。

TEL&FAX 0952-28-2077

E-mail unicef-saga@ams.odn.ne.jp